

2018 年度 湘南藤沢学会研究助成金 成果報告書

慶應義塾大学環境情報学部 3 年

梁嘉荷

1. 活動概要

世界一のイカ消費国である日本。実際、人とイカの付き合いは長く、奈良時代の書である日本書紀には男性名で「烏賊(いか)」, 女性名で「蛸」が用いられている。しかし、不思議なことに蛸について文化との関わりを記した文献・論文は多々あるが、イカの場合にはほとんど存在しない。つまり「イカの文化史」研究は手薄な状態である。この研究を進めるためには、分類学、動物生理学、生態学などの知識は重要な要素であるが、諸外国における「イカの文化史」も背景として捉えることが不可欠だ。本研究は、その第一歩として行うフィールドワークとなる。具体的には3年に一度開催されるイカに関する国際シンポジウムである Cephalopod International Advisory Council (CIAC) 2018 に参加して活動する。世界中から多くの頭足類研究者や関係者が集まる格好の場である。会場を中心としたアンケート調査、イカの種類に関するワークショップ参加、そして現地調査を通して経験を深めることにした。

2. 活動内容と成果

ワークショップ参加: CIAC2018 のシンポジウムは始まる前の2日間に開催されたワークショップのうち、2つ目の PARALARVAL AND JUVENILE CEPHALOPODS: AN UPDATED IDENTIFICATION GUIDE に参加した。このワークショップは、既存のイカ幼生(Paralarva)の同定に関するガイドの情報が古くなってしまったため、どのようにアップデートしていくか参加者の皆でディスカッションをする場として設けられた。同定時の問題点を探るため、実際に標本を使い分類形質などを元に同定してみるという作業を行った。イカ幼生の同定に関する基礎的な知識及び技術を身に付けることができた上、最前線で活躍している研究者方とディスカッションをすることは貴重なものであり、非常に有意義であった。

アンケート調査: CIAC2018 参加者を対象としたアンケート調査を行った。記載した項目は、①Name (optional), ②Country, ③City, ④Do you know any festivals or events related to squid or cuttlefish?, ⑤Do you know any of the squid characters in cartoons, movies, literature or other appearances?, ⑥Do you know any famous products or local specialties made from squid or cuttlefish?, ⑦Do you know any uses for cuttlebone?, ⑧

If you have any other information or experience related to this topic, please tell me.の8つである。期間中に口頭で協力をお願いし、約30枚のアンケート調査用紙を配布した結果、16件の回答を得ることができた(内オーストラリア2件、ブラジル1件、チリ1件、中国2件、イタリア1件、日本1件、ニュージーランド1件、ペルー1件、スペイン3件、台湾3件、計10国)。協力して下さった方は皆自身の所属する国におけるイカの情報を記入し、インターネットなどでは調べられないような情報も手に入った。文量の都合上、具体的な内容については割愛する。

その他: CIAC2018のシンポジウムに関することとして、5日間に渡って開催された研究発表やポスター発表では、イカに関する様々な分野の研究発表に触れることができた。内容についてはこちらも文量の都合上省略する。また、期間中を通して多くのイカ研究者と、今後も気軽に相談できるような良好な関係を築くことができた。CIAC2018を離れた活動として、視察しにいった会場近くのスーパーマーケットなどにイカが売られていなかったことや、聞き取り調査により、現地では日本と違い、あまりイカを食べないということがわかった。唯一見られたイカ料理は前菜としてのカラマリフリットであり、これに関しては多くのレストランで提供されていたため、これが現地での代表的なイカ料理であることが感じられた。

3. 今後の展望

今回のフィールドワークにて得られた多くの情報や知識、そしてイカ研究者の方々との繋がりを、今後研究を進める上で活用していく。卒業論文を書くにあたり、日本におけるイカの甲の利用について調査を行う予定だが、これに関してはアンケート調査の⑦で得られた情報を参考にして進めていく。その他の外国における「イカ文化史」に関する情報は、日本の「イカ文化史」と比較する材料として用いる。

4. 謝辞

本フィールドワークの実施は湘南藤沢学会の資金面での援助なしに実現することは極めて困難な状況でした。グローバルにアカデミックな学びを得られる喜びを深く感じ取る機会が得られましたこと、心より感謝申し上げます。本経験を必ずや将来の研究成果につなげる所存です。